

（論説）熊本市区改正 第一稿※

『熊本』明14・5・5

大凡土地ノ盛衰アリ繁閑アルハ、自然ノ形勢即チ河溝港湾ノ便否ニ拠ルハ固ヨリ、其所ナリト雖ドモ、人民生計ノ方向之レヲ然ラシムルモ亦多キニ居ルナリ。試ニ見ヨ、河溝港湾ノ便ニ乏シキ山間ノ都会ニシテ、自然ノ形勢ノ便宜ナルモノニ勝ル都会ハ、往時封建ノ世ニハ往々之レヲ見聞セシコトアリ。我熊本市街ハ蓋其一ナリ。自然ノ便宜アルニモ拘ラズ、山間ノ都会ガ桃源ノ別天地ヲ占メ独リ繁華ヲ恣ニスルハ、一国ノ財権ヲ掌握スルノ大小名ナルモノガ全国ノ財貨ヲ吸集シテ之レヲ散布スルノミナラズ、大小名ニハ若干ノ士族ナルモノアリテ百貨ノ消費者トナリ、其地ノ繁華ヲ輔クレバナリ。是故ニ、落ヲ廃シテ県ヲ置キ、士族ノ常職ヲ解キ汗食セシムルノ世トナレバ、曩^{さき}キニ繁華ナリシ都会モ俄然トシテ衰頹ノ色ヲ顯ハシ、居棲ノ商賈ヲシテ衣食ノ方向を改メズンバ朝夕ヲ支フ可ラザルニ至ル。是レ此レヲ世勢ノ変遷ニヨリテ避ク可ラザルノ危難トハ謂フナリ。時勢ノ変遷ヲ知りテ之レニ所スルノ策略ヲ設ケ、変遷ニヨリテ胚胎スル所ノ危難ヲ避クル、之レヲ高見卓識ノ士ト謂フ。否ナ、世ニ所シ事ヲ行ナハントスルモノノ知ラザル可ラザルノ秘訣ナリ。

然リ而シテ今余輩ノ熊本市区ヲ改正セントスルモ、蓋シ此秘訣ニ則ラントスルモノナリ。試ミニ旧来ノ熊本城下ナルモノヲ

見ヨ、聯軒櫛比シタル数万ノ商賈ハ何等ノ生計ニヨリテ衣食セシヤ。四隣ニ通ズルノ道路ハ故ラニ迂曲シテ運輸ノ便ヲ欠キ、百貨ヲ集散スルノ海港ハ浅瀬数里ニ涉リテ其用ヲナサズ。サレバ熊本城下数万ノ商賈ハ、商業ノ勝敗ヲ五畿七道六十余洲ノ人民ト抗争セシモノニアラズシテ、僅カニ熊本城主細川公ノ主従ヲ花客トナシ、漸ク衣食セシ商賈也。サレバコソ戸数一万余ニシテ人口五万ニ充ザル小都会ナルモ、商賈ノ居住旧城ノ四辺ニ在リテ、小都会中ノ小繁華ヲナスモノ東ニ坪井西ニ新町北ニ京町南に古町アリテ、各商業ノ脈絡ヲ絶チ、割拠其業ニ從ヒテ敢テ不便利ノ感アラザリシノミナラズ、往時細川公ノ城主タリシトキニ在リテハ、四街尽ク其榮ヲ争ヒ、又花主ニ其便ヲ与ヘシコト若干ナリシヤモ知ル可ラズ。然リト雖ドモ、現今ノ如ク廃藩置県ノ挙アリテ各城主ヲ廃シ、士族ノ常職ヲ解キ、座食ノ士族ヲシテ汗食セシムルノ世トナレバ、曩^{さき}時ノ花主ハ今日ノ同業ニシテ、共ニ利ヲ商売市場ニ争フノ人トナレリ。是ニ於テカ商業ノ方向一変シテ、商賈ノ目的モ一変セザル可ラザルノ場合ニ至レリ。是レ余輩ガ熊本市区ヲ見テ、其目的ニ応ズル能ハザルヲ知り、改良セント欲スルノ思想勃々腦裏ヲ刺衝シテ止マザル所以ナリ。江湖ノ論者、意見ノ拙劣ナルヲ咎メズ、教諭ヲ各ムコトナクンバ余輩ノ素志足レリ矣。

(論説) 熊本市区改正 第二稿※

『熊本』明14・5・7

熊本ノ商賈ハ后来何ヲ以テ衣食シ、何ヲ以テ生活スルヤ。旧日ノ花主ハ今日ノ同業トナリ、往時ノ消費者ハ現時ノ製産者トナレリ。花主ト消費者ノ減ズルノミナラズ、同業ト製産者ハ日ニ多キヲ加エントス。是ニ至ルモ猶旧株ヲ墨守シ、依然タル別天地ノ小範圍ナル商業ニ従事センカ、同業者ノ競争ト消費者ノ少キガタメニ、一家ノ破産ヲ免レザルモノ殆ンド稀ナリ。試ミニ眼光ヲ放チテ現今熊本ノ商賈ガ生活セントスル所ノモノヲ見ヨ。大概ニ之レヲ論ズレバ鎮台ト県庁トヲ以テ旧藩主・士族ニ当テ、生計ヲ営マントスルモノノ如シ。誤レルノ甚シキモノナリ。鎮台ト謂ヒ県庁ト謂ヒ、固ヨリ一州一県ヲ衛守支配スルノ官衙ナレバ、官衙自カラ支出スル所ノ費用莫大ニシテ、又タ之レニ付従スルモノノ費ス所ノモノモ多キハ今更ニ喋々セザルモ、之レヲ廃藩以前旧藩主ガ全州ノ財権ヲ掌握シテ、数十万人ノ士族ヲ養育セシ時ニ比スレバ、所謂九牛ノ一毛ニモ若カザルベシ。果シテ然ラバ今日熊本ノ商業ハ供給足りテ需用少キモノナリ。供給需用ノ相平均セザルハ商業ノ安全ナルモノニアラズ、必ズヤ平均スルノ法ヲ求メ、何レカ進流^{はうりゅう}セズンバアル可ラズ。

然リ而シテ余輩ノ目的トシテ進流セシメントスルハ、固ヨリ衰頹ノ潮勢ニ向ハシメントスルニアラズ、又他府県ニ向ツテ進

流セシメントスルニアラズ、遠ク之レヲ海外ノ貿易市場ニ潰決^{かいけつ}シ、万国商民ト互ニ競争セシメントスルノ目的ナリ。何トナレバ、我熊本市街ハ人烟稠密ニシテ九州ノ大都会ナリ。加フルニ位置ハ中央ヲ占メ、各州ノ物産ヲ集散スルニ於テ大ニ地位ニ適フコトヲ知ルナリ。去リナガラ只憂ヒトスル所ハ地ニ良港ナキノ一事是レナリ。

余輩熊本ニ良港ナキヲ憂フルヤ久シ矣。近頃聞ク所ニヨレバ、貳拾万円ノ地方税、十万円ノ国庫下付金及若干円ノ寄付金トヲ以テ百貫石港ヲ修築スルコトニ決セリト。果シテ修築其功ヲ奏シ、物産ノ散集ヲ自在ナラシムルコトヲ得レバ、余輩ノ目的トスル所ノ九州物産ヲ熊本市街ニ蒐集シ、又散布スルニ於テ何ノ難キコトカ之レアラシヤ。是レ余輩ノ百貫石築港ノ挙ヲ囂々^{ごうごう}贊^{さん}シテ止マザル所以ナリ。

我熊本市街ニシテ百貫石ノ築港其功ヲ奏シ、百貨ノ蒐集散布ニ差支ナキニ至ラバ、再ビ熊本ノ市区ヲ改メ、各市街割拠シテ商業ノ脈絡ヲ絶ノ弊ヲ矯メ、新町・古町・坪井・京町ノ四街ヲ一団シ、商賈互ニ相依リテ營業スルノ法ヲ立テ、八百屋店ノ商業ヲ改メテ專業ノ法ヲ行ヒ、小売店ノ数ヲ減ジテ卸売店ノ数ヲ増シ、魯雲^{ろくうん}ノ廬屋^{かおく}ヲ熊本中央市区ニ聯^つネ、九州各県ノ商業焦點トナシ、百貨ノ賈格ヲ茲ニ定ムル所トシ、彼ノ瑣々タル鎮台ヤ県庁ヲ花主トスルニ汲々^{きつ}タラズシテ、広ク海外諸邦ヲ花主トナシ、商業ノ勝敗ヲ各邦ノ互市場ニ争フノ企謀ニ従事スベキナリ。

如斯ク論断セバ、企図過大ナルヲ以テ或ハ放語空言視スルモノアラシカ。ナレドモ此レハ是レ今日ノ事情ニ疎キモノノ妄想ナリ。余輩ノ海外諸邦ト明言スル所ハ、固ヨリ全球ヲ泛称シタルモノナルモ、欧米ノ商賈ト商權ヲ競争ス可ラズトスレバナセ、然ルモ尚ホ東ニ濠洲西ニ支那朝鮮アリ、孰レモ開化ノ歩ヲ我ニ譲リタルノ諸国ナリ。殊ニ支那ノ如キハ四百余洲ノ版図アリテ四億余万ノ人口アリ。我國ノ物産ヲ輸入スルニ何ゾ需用ノ不足シテ供給余リアルノ理由アラシヤ。若シ之レヲ疑ハ歷年ノ日清貿易表ヲ緋ケ。兩國ノ貿易年ニ多キヲ加フルモ、少キヲ加エザルヲ以テ之レガ証左トナスベシ。況ンヤ我九州ハ支那朝鮮ニ接近セリ。是レ天公ノ支那貿易ヲ我九州人民ニ委セシ者ニアラザルヲ知ランヤ。然ルニ放擲シテ顧ミザルハ天与ノ幸福ヲ自棄スルモノナリ。有為ノ志アルモノノ共ニ語ルスラモ屑いささシトセザル所ナリ。豈ニ勤メザル可ケンヤ。論ジテ茲ニ到レバ余輩ノ希圖空望ニアラズ、否ナ今日ノ急務タルコトヲ知ルニ余リアラン歟。

(論説) 熊本市区改正 第三稿※

【熊本】明14・5・11

熊本ノ市区ヲ改正シテ熊本ノ商業ヲ振興シ、九州商業ノ焦点トナシ、物価ノ高低ヲ茲ニ定メ、九州商業ノ全權ヲ掌握スルニ於テ最モ必要ナリトスル所ノモノハ、熊本区ノ中央市区ヲ定ム

ルノ一事、是レナリ。試ミニ見ヨ、物トシテ中央点アラザルモノナシ。然ドモ中央点ノ位置ニ依リテハ物体ノ安置転倒皆繋ラザルハナシ。是レ中央点ヲ定ムルノ要用ナル所以ナリ。商業ニ於ケルモ亦タ然リ。市区ノ分画其当ヲ得テ百貨ノ集散ニ適スレバ其市街ノ商業繁盛シテ百貨ノ幅湊スルハ数ノ然ラシムル所ナリ。若シ之ニ反シテ、市街ニ中央市区ト名クベクモノナク、四方ニ小繁華ヲナスノ一部ガ散在スルアラバ、專業ノ法ヲ行ナハントスルモ、專業以テ一家ノ生計ヲ営ムニ足ラズ、不得止數業ヲ兼帶セザルヲ得ズ。於是カ利スル所少フシテ役スル所多シ。是レ小都會ノ商業ハ活潑ナラズシテ毎ニ萎靡振ハザルノ一証ナリ。

我熊本区ノ如キ、古町・新町・坪井・京町ノ四街尽ク各町自身ニ中央区トモ称スベキ中央点ヲ有ス。故ニ其範圍小ナリ。又從ツテ利益薄シ。是レ各街ノ俱ニ衰微ノ兆ヲ顯ハシ、古老輩ヲシテ封建ノ往時ヲ思慕セシメ、旧藩ノ頃ハ斯克アリ、封建ノ時ニ云々アリシト、独リ尚古ノ野心ヲ發セシメ、進取ノ氣象ヲ殺グニ至レリ。嗚呼歎ズベキノ甚シキモノニアラズヤ。

然リ而シテ今熊本市区ヲ改正シテ中央市区ヲ設クルハ那邊ノ場所ヲ適當トスルヤ。京町ニ定メン歟、京町ハ山鹿・高瀬往還ノ要路ニ當ルト雖ドモ、人煙幅湊ノ地ニアラザルハ地形ヲ一瞥セシモノノ知ル所ナリ。加フルニ山鹿道路ハ其道ヲ改メテ坪井ニ取り、高瀬街道ハ百貫石ノ築港ヲ俟ツテ海岸ニ改メントスルノ議アリト。果シテ然ラバ京町街ハ年ナラズシテ畦畦ニ變ジ、

狐狸ノ果窟ト化スルハ瞭々火ヲ視ルガ如シ。是レ中央市区ニ適セザルナリ。坪井街ノ如キ、京町ニ比スレバ土地平坦ニシテ稍中央市区ニ適スルガ如キモ、沿岸河運ノ便ヲ欠キ、漸ク北方陸運ノ道稍開ケシノミ。是レ又中央市区トナスノ地形ニアラザルナリ。新町ノ如キハ稍中央市区ニ適シタルガ如キノ視アルモ、地形未ダ可ナラザル所アルヲ覺ユルナリ。何トナレバ十年兵燹^{へいせん}後ノ現況ヲ一瞥セヨ。洗馬川ニ沿ヒタル各町ハ旧観ニ勝ルモ、其他ハ荒野ノ間ニ茅屋ヲ散見スルノミニ過ギザレバコソ、今回設立セントスル物品陳列場^{ちんれいじやう}モ故ラニ該地ニ建築スルコトトハナレリ。是レ人烟輻湊ノ地形ニアラザルノ証左ナリ。中央市区ヲ設クルノ地ニアラズ。且新町ノ二、三街ガ稍繁華ノ現況アルハ鎮台・県庁ノ影響ニシテ、之レト俱ニ動揺スルコトヲ免レザルナリ。由此觀之バ古町ノ一区域ヲ措イテ其他ニ良地アルヲ知ラザルナリ。余輩試ミニ区画ノ大概ヲ示サン。

熊本中央区ヲ古町一円ト概算シ、南ハ明辰・長六両橋以内、北ハ明十・明八両橋以内ヲ限リテ熊本ノ中央ト定メ、洗馬・白川ノ両河ヲ利用センガタメニ、両沿岸トモ共同物品揚場ヲ設ケテ貨物ノ出入ニ便ニシ、輸出入品貯藏ノ倉庫ヲ設立シテ物品ノ損傷ヲ防グノ方法ヲ設ケ、中央市区ニ当ルノ道路ハ広濶ニシテ、輻湊スル馬車往來ニ不都合ナキヲ度トシテ改造スベシ。古町ヲ以テ中央市区ト改メ、京町ノ如キ坪井ノ如キ、漸ヲ逐フテ之レヲ本山ニ移シ、本山村ヲ改メテ本山街トナシ、熊本市街ヲ円然タル一団ノ都會ニ變更シ、一万余ノ人戸ハ中央市区ヲ囲ン

デ之レガ城廓トナリ、五万ノ人民ハ互ニ商業ノ脈ヲ通ジテ雜貨ヲ鬻^{ひき}ガザルモ、各專業ノ商事ニ從ツテ隔靴搔痒ノ感ナカラシメントスルナリ。果シテ如斯クナレバ、各商賈ノ営ム所ノ業ハ識ラズ知ラズ範圍ヲ擴張スルヲ以テ、買入ノ原価低廉ニシテ売払ヒノ市価亦タ從ツテ低廉ナリ。茲ニ至リテ始メテ各家ヲ利シ、又各自ヲ益シ商業ノ繁盛期セズシテ至ラン歟。

(論説) 熊本市区改正 第四稿※

『熊本』明14・5・12

熊本区ノ四街ヲ駢列シテ各之ガ地形ヲ相シ、古町ヲ以テ中央市区ト定ムルハ不得止ニ出デタルガ如キモ、決シテ然ルニアラズ。地形ノ余輩ヲシテ中央市区ニ適切ナルヲ感ゼシメタルヲ以テナリ。

試ミニ余輩ガ中央市区トナサントスル所ノ地図ヲ繙ケ。南ハ白川ニ沿フテ北ハ洗馬川ニ浸サレ、両河船運ノ便ヲ蒙ルノミナラズ、百貨石港路ノ要衝ニ當リ、所謂熊本ノ咽喉ヲ占メタルノ地ナリ。是ヲモシ中央市区トシテ熊本商業ノ繁昌ヲ謀ラズンバ何モノカ熊本ノ繁昌ヲ来サン。且ツ繁盛ナル都會ト称スル各国ノ都府ヲ視ヨ。英京倫敦ハ達迷塞河^{テームズ}ノ兩岸ニ沿フテ、仏京巴里ハ塞納河^{セーヌ}ノ南北ニ亘レリ。其他各邦ノ都會ト雖ク水運ノ便ニヨラザルモノナシ、是レ余輩ガ古町ノ一部ヲ以テ熊本区ノ中央トナサントスル所以ナリ。

斯ノ如ク論断セバ、人アリ或ハ謂ハン、各邦ノ都会ガ水運ノ便ニヨルト。自然ノ幅湊地ニヨラズンバ決シテ其地ノ繁盛ヲ望ム可ラザルコトハ、或ハ然ラン。然ラバ則チ宜シク氣運ノ向フ所ヲ察シ、之レガ改正ヲ要スベキナリ。我熊本区ヲ改正スル、正サニ此法ニヨルベキナリ。今日熊本ノ現況ヲ以テ之レヲ論ズレバ、中央市区ナルモノハ洗馬・白川両河ノ狭地ニアラズシテ洗馬町ニ在ルナリ。洗馬町今日ノ繁華ハ即チ其証ナリ。是レ未ダ俱ニ熊本市区改正ヲ語ルニ足ラザルモノノ語ナリ。何トナレバ、洗馬町今日ノ繁華ハ、商業ノ繁昌セントスルノ兆ナル歟、余輩ヲ以テスレバ決シテ然ラズ。既ニ第一、二稿ニ掲ゲシ如ク、鎮台ヤ県庁ヲ花主トナサントスルノ商業ニシテ、余輩ノ俱ニ語ルヲ好マザル所ナリ。若シ之レヲ疑ヘバ洗馬街ノ商賈ヲ一瞥セヨ。同地居住ノ商賈ハ如何ナルモノガ多キヲ占ムルカ。旅店ニアラザレバ割烹店ナリ。斯ル細録ノ利ハ余輩ノ視ルモ屑シトセザル所ナリ。果シテ洗馬街ガ中央市区ニ適スルモノタラバ、何故ニ卸店ノ如キモノガ同町ニ居ヲ占メザルヤ。是レ不適當ノ一証ナリ。之ニ反シテ余輩ノ中央区ト認ムル各町ハ、小売店ナキニアラザルモ、大賈ノ居ヲ占ムルモノ多シ。是レ自然ノ地位ニ適シタルニアラザルコトヲ知ランヤ。且ツ洗馬町ヲ以テ中央ト定レバ、地位ノ可否ハ問ハザルモ、狹隘ニシテ余輩ノ目的ヲ達スル能ハザルヲ奈何セン。

余輩ノ熟々各地ノ市街ヲ察スルニ、北方漸衰シテ南方漸盛スルノ実況アリ。現ニ我熊本区ノ如キモ年ヲ逐フテ南方ノ隆盛ニ

趣キ、北方ノ漸次衰頹スルヲ見ル、斯ル原因アリ。今ニシテ古町ヲ以テ中央ト区劃シ置ケバ、稍南ニ偏スルノ嫌ヒアルモ、数年ヲ出ズシテ最好ノ地位タルヲ知ルニ至ラン。伝ヘ聞ク、百貫石道路ノ修築アリシヨリ春日・高野辺田ノ地価数倍ヲ増シ、百貫石築港ノ挙確定シテ百貫石沿道ノ地価ヲ再騰セシノミナラズ、対岸ナル本山村ノ地価頓ニ騰貴シ、之レヲ購ハントスルモ売ルモノナキニ至レリト見ルベシ。余輩ノ古町ヲ中央市区ト定メザルモ、自然ノ氣運ハ茲ニ趣キ、暗裏ニ熊本市街ヲ一変セントセリ。此時ニ乗ジ、熊本市区ヲ改正シ、商業ノ中心トナスニ恥ヂザルノ基礎ヲ置カズンバ、彼ノ十年ノ兵燹ノ如ク、熊本ノ市区ヲ改正シ商業適當ノ市劃ヲナスノ好機アリシオモ知ラズシテ過ギ去リシ。今日ノ如ク、再び市画ノ改正ヲ喋々セシムル式舞ヲナスカモ知ル可ラズ。時機ハ失ヒ易キモノナリ。当局者忽諸ニスル勿レ。

(論説) 熊本市区改正 第五稿※

『熊本』明14・5・15

熊本市区ノ改正セザル可ラザル所以ト改正セントスル目的ノ大概ハ、業既ニ説終リタルヲ以テ、我新聞ヲ讀ミシモノハ之レヲ知ルナラン。然リト雖余輩ノ猶一語ヲ述ベキモノハ白川・洗馬川利用ノ一事是レナリ。今利用セントスル所ノ洗馬川・白川ハ、俱ニ水勢微弱ニシテ水運ノ便ヲ与フル充分ナラズ。殊ニ白

川ノ如キハ平時干涸シテ漸クニ端舟ヲ通ズルニモ差支ユルコトアリ。又洗馬川ノ如キモ、稍水運ノ便ナキニアラザルモ、涸潮ノ時ニハ百貫石以西一面ノ干潟トナリ、端舟ト雖ドモ容易ニ通ズル能ハズ。思フニ百貫石修築ノ後ト雖、干満潮俱ニ端舟ノ往來シテ水運ノ便ヲ与フルコト能ハザルベシ。果シテ然ラバ、兩河利用ノ法ヲ計ラズンバ余輩ノ企図シタル市区改正モ其功ナキニ至ラン歟、是レ進ンデ講ズベキノ要欸ナリ。然リト雖余輩固ヨリ土木ノ学ニ暗ク、漫ニ土木ノコトヲ可否スル、識者ノ嘲笑ヲ免レザルコトヲ知ルト雖ドモ、見ル所アリテ謂ハザルハ又識者ノ取ラザル所ナリ。況ンヤ耳目ヲ以テ任ズルモノノ責メヲ塞グ能ハザルニ於テオヤ。

白川ノ水流毎ニ少量ニシテ水運ノ利ヲ開クニ足ラズ。之レニ充分ナル水量ヲ与フルニハ、白川ニ沿フテ開キタル水田ヲ廢シ流水ヲ減少セシムルノ源ヲ防ギ、増水スルノ方法ヲ開クニ在リ。然ドモ是レ決シテ今日ニ行フ可ラザルノ法ナリ。サレバ江津川ノ水ヲ援^ほキテ白川ノ水流ニ合シ、其ノ量ヲ増シテ水運ノ利ヲ開カバ或ハ余輩ノ目的ヲ達スルニ庶幾^{ちか}カラシム。

洗馬川ノ水運ハ今既ニ開ケ、稍我々ノ幸福ヲ与フルモ隔靴ノ數アルハ前既ニ述ブルガ如シ。且ツ洗馬川ノ短所トスル所ハ水量ノ僅少ナルト水流ノ緩漫ナルトニ在リ。余輩ヲ以テ之レヲ見レバ、同川水流ノ緩漫ハ容易ニ矯ム可ラザルベシ。然ドモ水量ノ僅少ナルハ之ヲ医スルノ法ナキニアラザルベシ。之ヲナス奈何、西洋運河ノ法ニ倣ヒ、一、二ヶ所ニ水門ヲ設ケ、水量ヲ増

加スルノ法ヲ設ケバ、水流ノ緩漫ニシテ水源ノ遠カラザルハ、却ツテ運河ノ設立ニ便宜ヲ与フルモノナリト明言スルモ敢テ不可ナキガ如シ。斯ノ如クニシテ始メテ洗馬川ノ利用全カラシム。

中央区ヲ区画シ、白川・洗馬兩河ヲ利用シテ熊本商業ノ繁昌ヲ計ラントスルノ大概ハ畧尽セリ。其精細ノ如キハ實際ノ測量ヲ以テ之ヲ定メ、土木ノ工師ニツイテ其真理ヲ窮ムルニアラザレバ、余輩記者ノ容易ニ断定スル能ハザル所ナリ。讀者余輩計図ノ大概ヲ取捨セバ余輩亦タ何ヲカ謂ハシ。(大尾)

(論説) 熊本市区改正 第二策※

『熊本』明14・5・19

大器ハ晩成、大業ハ容易ニ功ヲ見ル能ハズトハ万般ニ通ジテ洩レザルノ格言ナリ。彼ノ市区改正ノ如キ、之レヲ謂フハ易クシテ之レヲ行フハ難シ。余輩ノ企図シタル市区改正ノ如キモ、之レヲ實地ニ施行セントスルニハ、数年或ハ数十年ヲ期セズンバ充分ナル目的ヲ達スル能ハザルベシ。故ニ余輩ノ始メ此稿ヲ起スヤ、急速之レヲ實施センコトヲ望ムモノニアラズ。惟^{ただ}后来ノ措置如何ヲ論及セシノミニシテ、今只其基礎ヲ定メラレンコトヲ欲シテ五日ノ紙上ヲ填塞セシモノナリ。然リト雖熊本今日ノ市区ハ今日ノ商業ニ適當セザルナリ。市区ノ商業ニ適切ナラザルハ商業衰頹ノ基ヒタルコトハ既ニ述ベタルガ如シ。サレバ

急遽市区ヲ改正スルノ法ヲ求メテ暫ラク大成ノ業ヲ俟タザル可
ラズ。是レ余輩ガ第二策ヲ講ズルノ所不得止ナリ。市区改正ノ
第二策ハ姑息ニ出デタルモノニテ、暫シヲ支エンガタメナリ。
故ニ凶ル所モ亦タ從ツテ姑息^{こそく}偷安^{とうあん}ノ策畧タルヲ免レズ、企ツル
所只妨碍ヲ除クニ止マルノミ。敢テ新ラシク修築スルコトヲ勤
メザルナリ。余輩ノ論旨ヲ茲ニ定メ当今ノ熊本市区ヲ相スル
ニ、第一ノ妨碍タルモノハ市街ノ中央ヲ横絶シタル練兵場ナ
リ。若シ練兵場ヲ他ノ空地ニ移シテ同所ヲ市街トナサバ、沿岸
ノ各所ニハ倉庫ノ如キモノヲ設立シテ物品ノ集散ニ便ニシ、又
練兵場ニハ各所ノ商賈ガ移住シテ商業ヲ営ムニ至リ、洗馬町ノ
繁昌ヲ輔クルノミナラズ熊本市街繁榮ヲ増ス今ヨリ数層ナルヲ
知ラズ。是レ余輩ガ第二策トシテ不得止ニ行ナハントスル所ナ
リ。且ツ練兵場ヲ移転セシメバ、余輩ノ目的タル熊本区ヲ一団
ノ市場トナスノ階梯トモナレバ、後日大ニ市区ヲ改正スルノ妨
碍トナラザルノミナラズ、南北部ノ一方ヲ改正スルノ一端ナ
リ。

如斯ク論ジ来レバ人アリ、或ハ謂ハン。山崎練兵場ヲ余所ニ
移セバ商賈ノタメニハ便ニシテ、商業ノ繁昌スルハ然ラン。然
リト雖鎮台ニ接シタル場所ニ空地ナク、人家櫛比シタルハ防禦
ノ法ニ妨ゲアリ。哨兵線ヲ敷クノ地ナキヲ奈何セント。夫レ然
リ、然リト雖コハ余輩ノ企圖ヲ空シクスルニ足ラザルナリ。何
トナレハ、哨兵線ヲ設ケ防禦ノ計ヲナスハ平時ニアラズシテ一
揆等ノ非常ヲ謂ヒタルモノナラン。果シテ然ラバ、戦時ニハ彼

ノ十年ノ役ノ如ク焼払フモ可ナリ。取毀スモ可ナリ。平日ヲ以
テ論ズ可ラズ。タトヒ之レヲ焼払取毀タザルモ、暴徒ノ熊本ニ
起リタルトキハ、我レヨリ焼カザレバ彼レヨリ焼カレ、我ヨリ
毀タザレバ彼レヨリ毀タン。敢テ遠慮スベキニアラザルナリ。
斯ノ如ク始メヨリ哨兵線ヲ敷クノ用意ヲナシ置キ市街ノ設立ヲ
許サバ、何ゾ防禦ヲ妨ゲン、何ゾ哨兵線ヲ害セン。戦時ハ百歳
ノ一時ニシテ平常ニアルモノニアラズ、平常ナラザルモノヲ予
防シテ、平時ノ繁盛ヲ妨グルハ決シテ策ノ得タルモノニアラザ
ルナリ。且ツ練兵ノ場所ハ熊本市街何ヲ扱ブモ不都合アルコト
ヲ見ザレドモ、当時ノ練兵場ナル山崎町ヲ市街トナサザルニ至
リテハ、熊本ノ商賈ヲ害スルコト決シテ些少ニアラザルナリ。
故ニ余輩ハ切ニ願フ、熊本全局ノ利害得失ヲ計リ、練兵場ヲ移
転シテ商業ノ繁昌ヲ裨補セラレンコトヲ。

